

曇雨天に対する農作物の技術対策（第2報）

令和8年9月15日
農業技術課

1 気象概況

気象庁の週間天気予報では、今週から来週にかけても、曇雨天が続く見込みです。降水量が多く、日照時間が少なくなることから農作物への影響や病害の発生が心配されます。今後の気象情報に注意し、農作物の管理に十分注意してください。

<週間天気予報 9月15日11時発表 甲府地方気象台>

山梨県の天気予報（7日先まで）								
2026年09月15日11時 甲府地方気象台 発表								
日付	今日 15日(火)	明日 16日(水)	明後日 17日(木)	18日(金)	19日(土)	20日(日)	21日(月)	22日(火)
山梨県	曇時々雨 	雨時々止む 	曇一時雨 	曇 	曇 	曇一時雨 	曇一時雨 	曇 
降水確率(%)	-/-/50/50	50/60/80/70	50	40	40	50	50	40
信頼度	-	-	-	B	B	C	C	C
甲府 気温 (°C)	最高	25	24	28 (26~31)	31 (28~33)	29 (26~32)	30 (27~33)	29 (26~33)
	最低	-	21	19 (18~22)	19 (16~21)	20 (17~21)	21 (19~23)	21 (19~23)
向こう一週間（明日から7日先まで）の平年値								
降水量の7日間合計				最低気温		最高気温		
甲府				平年並 10 - 49mm		18.7°C 27.8°C		

2 農作物の技術対策

（1）果 樹

<共 通>

- ・ほ場が滞水した場合は、速やかに排水する。

<ブドウ>

- ・棚面の受光条件改善のため、新梢の誘引の見直しを行う。
- ・同化養分の浪費を防ぎ、食味を向上させるため、旺盛な新梢の摘心を行う。また、伸びている副梢を2～3枚残して摘心する。ただし、邪魔にならない副梢はそのままにしておく。
- ・晩腐病の二次感染や裂果からの腐敗を防ぐため、ほ場を巡回して発病果粒や裂果した果粒を速やかに摘粒し、園外へ持ち出すか土中に埋める。
- ・べと病の発生が懸念されるため、成熟～落葉期まで葉を健全に維持できるよう、防除暦を参考に慣行防除を徹底する。特に欧州系ブドウでは防除を徹底する。
- ・黒とう病の発生に注意し、発生がある場合は、二次感染を防ぐため、ほ場を巡回し発病部は速やかに剪除し、園外へ持ち出すとともに、降雨前や晴れ間を見て防除暦を参考に慣行防除を徹底する。

＜モ モ＞

- ・せん孔細菌病の防除のため慣行防除を徹底する。なお、秋季防除の前に、病斑のある枝を除去する。

(2) 野菜

- ・ナス、トマト、キュウリでは、疫病、べと病、灰色かび病等の発生が助長されるため、ほ場の排水対策を徹底するとともに、病株、病葉及び病果の早期除去を行う。また、登録農薬による予防散布及び適期防除を実施し、病害の発生・まん延防止に努める。
- ・夏秋ナスでは、日照不足により果実の着色不良や草勢低下が生じやすいため、混み合った枝の整理や下葉の摘葉により受光態勢及び通風性を改善するとともに、葉面散布や追肥など適正な施肥管理を行い、草勢の維持・回復に努める。
- ・夏秋トマトでは、日照不足により花粉の活力低下や着果不良が発生しやすいため、着果ホルモン処理を適切に実施し、安定した着果を図る。なお、使用に当たっては農薬登録内容を確認し、使用基準を遵守する。
- ・キュウリでは、曇雨天によりべと病や褐斑病等の発生が助長されるほか、草勢低下も懸念されるため、摘葉による通風改善や適正な肥培管理に努める。
- ・曇雨天が続いた後に晴天・高温となった場合は、蒸散量の増加により萎れや果実の日焼けが発生しやすいため、適切な灌水を行うとともに、施設栽培では換気や遮光資材の活用などにより、急激な環境変化による生育障害の防止に努める。

(3) 水稻

- ・収穫は、出穂期（ほ場全体の穂の40～50%が出穂した時期）からの日平均気温の積算温度を目安に、ほ場ごとに黄化した籾の割合（85～90%）を確認し、適期刈り取りを行う。
- ・バインダー収穫は950～1,000℃、コンバイン収穫は1,000～1,100℃が目安である。
- ・倒伏した場合、収穫時期に達しているものは排水後、速やかに収穫を行う。収穫時期に達していないものは引き起こして数株ごとに結束する。

(4) 畜産

＜飼料作物＞

- ・飼料作物については、排水不良が懸念されるほ場では、湿害対策のため排水の確保に努める。
- ・天候に応じ、迅速に必要な作業が行えるよう機械等の準備を進め、良質な粗飼料の確保ができるよう努める。